

(調査様式1)

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年2月27日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300575
法人名	有限会社カリヤ
事業所名	グループホーム愛
所在地	鹿児島県鹿屋市下高隈町5039番地8 (電話) 0994-40-6100
自己評価作成日	平成27年 11 月 11 日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成28年2月19日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

会社所有の畑が2アールあり、年間を通じて季節の野菜、芋等を栽培している。その日の調理当番は畑から収穫した野菜類で調理できる。また、代表により「今、何が収穫できるか」や収穫した作物が届けられ、日々野菜の情報が入手できる。無農薬でもある。  
肥料もコンポスト等有機肥料を使用している。  
また数キロ離れた場所に山林を所有しており、月2回(1日と15日)山神祀りに入居者が代表と同行して神酒を楽しむ。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当ホームは、幹線道路沿いに位置し同法人の住宅型有料老人ホームが向かい側にある。通所介護利用者が通って来られ、入所者とともに食事やレクリエーション活動、ホームの行事などに参加されている。
- ・ホームの理念は、馴染みの仲間と健やかに暮らし、地域の仲間と仲良く暮らしながらみんなで輪になって、和やかに話をしたいという入居者の理念と職員の理念があり、ケア会議などで理念に触れ、話し合うなどして大切にされている。
- ・利用者の食べる楽しみを支援するため、自家農園で栽培された無農薬野菜が1年中食卓を飾り、本人の好みを重視しバランスの取れた食事を提供している。また、地域の方から日常的に差し入れがある。米は、地元農家から購入するなどして食の安全を心がけている。
- ・職員は毎月ケア会議を開催し、会議では処遇についても話し合っている。会議には、管理者は参加せず職員間で協議された記録を確認し、指導・助言をしている。記録を確認し全職員が情報を共有しケアに活かすよう取り組んでいる。
- ・協力医療機関とは、医療連携体制が整っており、利用者や家族の希望するかかりつけ医になっている。24時間医療体制が構築され重度化した場合は段階に応じてホームででき得る最大のケアについて主治医や本人、家族、関係機関と本人本位に話しあっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員は運営の基本方針や目的をしっかりと踏まえて理念を共有し、介護の実践に繋げるべく園内研修等に於いて学習をしている	ホームの理念は、「入居者の理念」「職員の理念」とそれぞれにあるが、管理者と職員は、その理念を共有して日々のケアやサービスにつなげられるようケア会議などで話し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	経営者が地元であり（ホーム隣に自宅）ホームも隣近所の人と気軽に声をかけられる環境にある また地域の行事（奉仕作業等）にも参加している	管理者は、隣接した地域の班会に参加して地域交流し、地域の行事（グランドゴルフ・十五夜など）に参加したりボランティアなどを積極的に受け入れている。利用者が外出した際の安全確保のため、駐在所や地域の方々と連携を図り協力体制を確保している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	来園、または電話にて相談ごとが度々ありその都度直接アドバイスをしたり、しかるべき居宅介護支援事業所等を紹介している また9月より実施されている地域包括ケア推進サポートワーカーの養成研修を受講した		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見や提案はサービス向上の為に役立っている また会議には委員以外の地区の役員、消防分団の方にも参加してもらおうなどしている	会議のメンバー以外に民生委員のOBや消防団の方などなるべく多くの地域の方々に参加してもらえるよう配慮している。職員は、車いすの使い方をレクチャーしたり、事業所の課題や取組を報告するなどして地域に協力をもらっている。また、会議で話し合われた意見はサービスに活かされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話により日常的な相談や指導を、また提出物等で顔合わせできる機会を通じて助言や指導を受けている	地域包括ケア推進サポート養成研修を受講した代表者を中心に「鹿屋オレンジカフェ」を今月から開く予定である。市担当者とは協力体制もあり認知症の相談窓口を通じて社会貢献を強く意識している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束をしないケアを行っている	ふいに外出される方がおひとりおられるが、家族の理解と地域の方々の協力体制が構築されており、徒歩で自宅に帰宅しホームに帰って来られるといった自由な暮らしを大切に支援している。職員は、身体拘束の弊害について研修会で再確認するなど身体拘束や虐待行為への意識は高く利用者本位に尊厳をもってケアしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法については研修会等に積極的に参加し学習しており、施設内でも園内研修に計画を組み込んでいる 資料としては行政からの通達の文書等を使用し、具体的に話し合っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	経営者、管理者、職員共に研修等で学ぶ機会を得ている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>全ての文書において説明を行い理解、納得を得て利用してもらっている</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見や提言があれば受け止めて直ちに運営に反映できるようにしている</p>	<p>利用者や家族とは、直接面談して意見や要望などを聞くようにしている。年1回開催される家族会では食事や催しを楽しみながら忌憚なく意見が出せるように雰囲気作りに努めている。また、第三者委員である元民生委員を中心に日頃から利用者に接する時や訪問した際に意見を聞く機会を大切にしている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回開催の(有)カリヤの幹部会議の他に、日常的に聞く機会があり(お茶や食事時)すぐに反映出来る事また。社長、施設長に相談して出来る限り実践している</p>	<p>職員は、A棟・B棟それぞれ分かれケア会議をおこなっているが、管理者はそこで話し合われた会議の内容を書面で確認したのち職員に対し指導や助言をしている。管理者は、職員の意見を受けて月1回の幹部会議に参加し運営に関する意見を運営者と協議している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>度々職員の意見を聞いたり、会社の方針を話す等して、双方の条件を整えている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内外の研修を受ける機会を逃さず、介護の経験年数や本人の意欲に応じた資格取得ができるように進めている</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>大隅地区介護事業所連絡会において、交流会や研修会が多く、必ず参加している</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人の要求に沿ってできるだけ叶えられるよう努力している その結果、本人の安心と信頼を得られていると思う</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>初期には可能な限り家族に来園してもらい、話したり現状をみてもらいながら問題点があれば受け止めて対応できる体制を作っている</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けたら話を聞いて出来る事等見極め対応を行っている 他のサービス利用は本人や家族からの要望もなく現在グループホーム以外の利用はない</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者と職員は一緒に洗濯物をたたんだり、作業療法により一つの物を一緒に作り上げる等実践している。また昔話を聞いたり、時には立派な知恵から介護のノウハウを学ばせてもらうことや調理方法を教わったりする</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が出来ない事を手助けしました家族にお願いすることもありいい交流が図られる努力をしている。本人に少しでも変化があれば電話をかけて相談したり報告をしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族及び地域の人々の認知症への理解も進んできているので今後も途切れる事のないよう支援に努める	日常では、家族と墓参りや食事、外泊を楽しまれる方がおられたり外来受診の際に職員との外出を楽しまれる方がおられる。電話の取次ぎや手紙などの代読を支援している。毎年、小学生が育てた花を持って訪ねて来てくれたり、地域の方が丹精込めた野菜の差し入れをしてくださり交流がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴により孤立しがちな人もあるが、馴染みの関係となり時には衝突しながらも和やかに暮らせている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方の家族にも他の施設に移られた利用者の方々にも時折は近況を聞いたり訪ねたりしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや希望にそえるよう努めている	思いを言葉にできない方もある中で、失語症の方には口読したり、筆談で会話するなどの手法を用いるなどコミュニケーションに力を入れている。ホームは食を通じて心を通わすことも実践しており、本人の好みの料理を提供し食べる楽しみを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一緒に話をしたり散歩をしたりして今までの暮らしぶりを聞いたりする。入居者個人の要望に応えながら時間を作っては一緒に行動しながら把握していくようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室で昼寝をされたりテレビを観たり散歩や手伝い等、心身の状態を常に把握し、一人一人に合った過ごし方ができるように努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントやモニタリングはケア会議でスタッフ全員で行う本人、家族、介護スタッフ、計画作成担当者他関係者とはその都度話し合っって介護計画を立てている	毎月開催されるケア会議の中では、処遇会議も含まれ利用者ごとにアセスメントやモニタリングも同時に話し合われている。モニタリングは、必要に応じて実施されており見直しにも柔軟に取り組んでいる。管理者は、介護計画が利用者主体の暮らしに反映した計画になっているかどうか確認するとともに計画作成担当職員に指導や助言をおこなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に記録し口頭で日勤者より夜勤者へ、また施設長や管理者に報告される。入居者の情報は共有しほぼ把握して介護にいかしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度のニーズにはその都度本人や家族の要望に可能な限り柔軟に支援している		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	元民生委員には相談苦情の委員をお願いしており、地域の消防団とは年一回避難訓練を通じて入居者の状況を理解してもらっている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を重要視し受診をすすめてきている	主治医は、利用者や家族の希望するかかりつけ医になっている。通院介助は職員が支援しており、家族には、月1回報告している。他科受診、訪問診療、訪問歯科診療、薬剤師との連携など適切な医療が受けられる体制がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	24時間体制でホームの看護師と相談して、入居者の健康を管理し、適切に見極めができています		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	入院中その後の受け入れなど医療関係者、家族ともよく相談し可能な限り早期退院に向けて努力している（入院後2週間を目途としているが、必ずしも2週間ではなく幅を持たせて柔軟に対応している		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	看護師や管理者が中心となり家族も含めて検討し、可能な限りホームで暮らしていけるよう努力している	入所時、指針にて重度化した場合や看取りについて説明している。医療機関との連携体制が24時間取れており、看取りの事例は過去2回ある。昨年、1事例経験しているが、隣家に代表者の住まいがあるため、夜勤の職員も安心して職務が遂行できている。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	消防署主催の普通救命講習を受けており、今後も続けていく急変時の連絡網及び救急時の情報提供カード等整備している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地域の消防団及び中央署びお願いして年二回び訓練を実施している（通報、消火の現地訓練、担架搬送の現地等）非常ベルは北側南側の外部に向けて鳴動する仕組みで地域の協力が得られると思う。また放水用の消火栓も定期的に点検、近くの農業用水もつかえるよう整備した</p>	<p>夜間想定避難訓練は定期的実施されているが、地域の方々も一緒に参加いただき、役割を確認するなどしている。今年11月の訓練では、18時頃に実施する予定である。地域には、15名程度の協力者がおり協力体制が構築されている。備蓄については、米や野菜などを常備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時折、声も大きくプライバシーを損ねた言葉づかいであると感じる時もある。その都度注意指導、また職員研修も高齢者の尊厳について学んでいる	マニュアルを用いて定期的に研修を実施している。利用者に対しては、年長者として常に敬い失礼のない言葉使いや態度を心がけている。管理者は、職員の対応などを見守り、必要に応じて指導するなど教育を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に希望が解る限りは希望に沿うように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にして暮らしてもらえるようにはしているが、見守りに欠ける時間帯には必ずしもというわけではない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	化粧、肌の手入れ等したい人は化粧品の購入、理美容なども本人の希望に沿っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物、好きな物等聞いたり、食事の形態等希望や状態に合わせている。	利用者の好みに合わせた献立を作成している。ホームの自家農園で栽培された採れたて野菜が色とりどりの料理となって食卓を飾っている。ツワブキの皮むき、おしぼりたたまを手伝われる方もおられ、年1回家族会で弁当と一緒に摂る機会も設けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスはほぼ同じ量を摂取されている。身体状況等多少の差があるも皆さんほぼ全量摂取される。水分量は一日の理想摂取量がほぼ摂れている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず実施している。義歯洗浄剤や義歯調整剤など常時整備しておく。また洗口液を使用して口臭を防止する人もいる		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の訴えと時間毎の声かけ誘導にてトイレでの排泄ができるよう支援している	職員は、排泄のリズムが整えられるよう食物繊維の多い食事や水分補給、ヨーグルトは毎日提供している。おむつへの排泄が減らせるようポータブルトイレを併用したり、トイレ誘導して排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常習性便秘で緩下剤服用の入居者もあるが、快便につながるよう工夫はしている（十分な食事、水分の摂取ができているか）三日以上排便が無い時は医師の指示がある人は緩下剤で調整している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	体調不良や気分がすぐれない時等以外は毎日入浴できる環境にはあるが、時間帯が決まっており全員は入浴できない為、交代にしている	B棟は、入浴が順番に実施できることがひと目でわかるようカレンダーを掲示している。概ね入浴の時間は決まっているが、必要に応じて入浴して清潔が保持できるよう支援している。浴槽から外の景色も眺望できるなど開放感がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室でゆったりと他の入居者を気にせず過ごしてもらえよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後の薬の処方について飲み方やその内容、副作用など把握するように指導している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理やり何かをしてもらうのではなく出来る人に出来る事をしてもらっている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	頻繁には外出できないが、広い庭があるため、散歩等は行っている。家族とはホテルで昼食を一緒に摂る機会もある	お花見や外食、3ヶ月ごとに美容院に行かれる方への対応をするなど、外出は個別に支援している。毎月、受診の際は車窓から景色を見ながら季節を感じたり、ドライブを楽しむなど日常的に外出を支援している。また、1日数回自宅に帰宅される方にも地域と協力して出かけられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>少額持っている方もいるが使う機会は少ない。ただ楽しみの為、安心感の為、自分で所持することは大切な事と考えている</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話をかけたい申し出があればその都度かけてあげることある。手紙が届くことはあっても入居者自身が書くことはない。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>不快な音や光は。個々の訴えに合わせて消したり小さくしたり配慮しており、居心地よく過ごせていると思っている</p>	<p>玄関には季節の生花が飾られ、天井は高く採光があり、キッチン是对面式になっている。デイ利用者が通って来ておられ、入所者とは馴染みになっている。ソファが設置されており、思い思いに過ごせるよう工夫されている。共有スペースには、ホームの理念、利用者一人ひとり紹介の色紙が掲示されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合う人と一緒に過ごせるなど自分のスペースは確保されている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族の写真を飾ったり、本人の作品を貼ったりと環境づくりをしている。</p>	<p>床ずれ防止用のエアクッション、マッサージ機、毛布などの寝具を持ち込み、家族写真、習字なども飾られている。利用者が思い思いに過ごせるよう工夫されており、センサーマットの活用も多く、転倒防止に配慮している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入居者の方それぞれの出来る事、出来ない事を把握してその人にあった生活援助に努めている</p>	/	/

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない